

6月の衛研検査情報

～トピックス～

横浜市区別標準化死亡比（SMR）

地域別に、死亡数を人口で除した通常の死亡率（粗死亡率）を比較すると、地域の年齢構成に差があるため、高齢者の多い地域では死亡率が高くなり、若年者の多い地域では低くなる傾向があります。このような年齢構成の異なる地域間で、死亡状況の比較ができるように考えられた指標として、標準化死亡比（Standardized mortality ratio：SMR）があります。

標準化死亡比は、基準集団の年齢階級別死亡率とその地域の人口から算出する期待死亡数と、その地域で実際に観察された死亡数の比を用いることで、その地域の死亡状況がどの程度かを推測する指標です。標準化死亡比を用いることで、年齢構成の異なる集団について、年齢構成の違いを気にすることなく、より正確に地域比較ができます。

衛生研究所では、代表的な疾患について全国と比較した区ごとの標準化死亡比を算出し、ホームページ（<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/katsuyo/data.html>）に掲載しています。

主な結果 今回、昨年度公表された平成22年の人口動態から得られた数値を元に、データを更新しましたので、その内容の一部をご紹介します。

平成24年度 家庭用品検査結果

家庭用品担当では日常の生活用品である下着、靴下、帽子、床敷物、カーテンなどの繊維製品および家庭用の接着剤、塗料、エアゾル製品、洗浄剤などの家庭用化学製品について、「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づき検査を行っています。

主な結果 取り扱った検体数は87件、延検査項目数は323件でした。このうち規格基準を超えた検体は8検体であり、違反内容はすべて乳幼児用繊維製品のホルムアルデヒドでした。

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所WEBページは、感染症情報や保健情報、薬事情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。検査情報月報では、アクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説しています。



主な結果 平成25年4月は、リシン毒素、先天性風しん症候群、風しん、クロストリジウム・ディフィシル感染症に関するページのアクセスが多くみられ、総件数は407,245件でした。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/>



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査等の結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。